

平成22年度第2回高津区区民会議（摘録）

日 時 平成22年10月15日（金） 午後6時00分～8時15分

場 所 高津区役所第1会議室

1 出席者

- (1) 委員 木村委員、佐藤委員、吉田委員、長谷川委員、関口委員、安達委員、井坂委員、伊中委員、笹子委員、大内委員、若林委員、富田委員、河村委員、金委員、横山委員、仲村委員、鈴木委員、川邊委員、吉田委員
- (2) 参与 猪股参与、後藤参与、堀添参与、粕谷参与
- (3) 行政 船橋区長、栗山副区長、大塚保健福祉センター所長、安藤地域振興課長、新井地域振興課担当課長、昼間生涯学習支援課長、星区民サービス部長、奥山保健福祉センター副所長、鈴木こども支援室長、上野市民税課長、加藤道路公園センター所長、河野橋出張所長、中村総務課長
- (4) 事務局 八木課長、佐藤担当係長、星担当係長、高橋主任、塩沢職員
- (5) 傍聴者数 4名

2 次 第

1 開 会

2 議 事

- (1) 企画運営会議における審議状況について
- (2) 第3期区民会議の審議課題について
- (3) 学習会・現地調査について
- (4) 第3期実行計画素案について
- (5) その他

3 閉 会

1 開 会

委員出欠状況の確認、区長挨拶及び委員長挨拶

2 議 事

- (1) 企画運営会議における審議状況について

資料1について若林副委員長より説明。

佐藤委員長 企画運営会議における審議状況について、ご意見があるか。

説明のとおり了承。

- (2) 第3期区民会議の審議課題について

資料2から資料4について事務局及び各班の代表者より説明。

佐藤委員長 第3期区民会議の審議課題について、ご質問、ご意見があるか。

伊中委員 環境について、先ほど評価の報告があったが、決して区民会議で何もしないということではなく、「エコシティたかつ」等との連携を深めていくと捉えてよいのか。

横山委員 既にバーベキュー問題については地元の町内会を含めた対策会議があるので
そういったところや、「エコシティたかつ」との関係も含めて、各組織等々の進捗状況
の報告を受けながら連携を深めていきたい。

伊中委員 単に言葉だけの連携ということでは足りない。環境問題は多岐にわたっており、
高津市民館に温暖化防止活動推進センターができること等を考えると、高津区が環境問
題、温暖化防止対策の中心になっていくと思う。どういった活動をどのように取り上げ
区民会議がフォローしていくか。その関係をつくるのは容易なことではない。単に報告
して連携というだけで良いのか。環境については今まで取り組んできた中で、この先ど
うするのかというのが、何となく宙に浮いてしまっている気がする。

横山委員 9月6日の検討会の中では突っ込んだ議論はほとんどなかったと記憶してい
る。ただ、おっしゃられるとおり、色々な取組がある中で、それを地域で展開してい
くには、事業者との関係や、学術的にも色々な説があるということも含めて、難しい面も
ある。いずれにしても、まだまだ不勉強なところがあり、もう少し検討しないと具体的
なイメージが見えてこないという感じを持っている。

佐藤委員長 環境問題について、重要な1つの課題として俎上に乗せることについて他に
意見はあるか。

横山委員 自分自身も廃棄物の減量指導員をやっている。ごみの削減、廃棄物の減量等、
市民レベルの取組を行政と連携しながら取り組んでいるが、取組が推移する中で区民会
議でバックアップの必要があれば、今後検討をしていただきたい。

伊中委員 自分も使用済みてんぷら油を集めて、それを石けんやBDFに変えるという活
動をしているが、これは油を回収するのが目的ではなく油の回収を通じてコミュニティ
づくりをしている、というふうに感じている。新しいコミュニティづくりを目指すなら
ば、環境問題へのアプローチも一つのツールとして入れていくべきではないか。

笹子委員 コミュニティの課題の中の世代間交流等、環境が「場づくり」も1つのきっ
かけになればよいと思う。例えばミックスペーパーの分別が来年の4月から始まるが、親
子2代、3代で話し合いをする場をつくるというような。

井坂委員 コミュニティの存在がないと地域の課題は解決できないと思う。環境もコミュ
ニティづくりの1つのきっかけにはなると思うが、それほどこだわる必要はないのでは
ないか。ただし、単に町会の加入率を上げるということだけではなく、多様なコミュ
ニティをとという考え方が必要ではないか。

吉田(知)委員 宮前区の防災ネットワーク会議の進捗状況をチェックしているが、それ
と比較して高津区は手温いのではないか。

地域振興課担当課長 避難所運営の必要性を説き、できるだけ早く宮前区並みに避難所運
営会議が動くようにしたい。

佐藤委員長 第3期の審議課題(案)のタイトルについてもご意見を伺いたい。

河村委員 どうして「地域で過ごす」という言葉が出てきたのかというと、以前子育て情

報誌を作成していたとき、その中で遊びに行こうとか、学ぼうという視点はあったけれど、地域の仲間と出会うという視点はなかった。仮住まいで賃貸マンションに住んで、子どもは習い事に行き、遊ぶときはどこそこに行くという生活を断片的に行うのではなく、自分の地域の中でどういうふうにご経過して、不便なことがあったらどういつながりを持って、どうやって解決していくかという視点を持つことが、子育て世代には必要だと思っている。

吉田（豊）委員 「新しいコミュニティの姿」という表現はわかりにくい。各人イメージするものがバラバラではないか。「地域で過ごす」のは当たり前のこと。「地域で過ごす」よりも「出会う」とか「語り合う」という表現を入れたほうがよいのではないか。

金委員 地域防災について、避難所運営会議や防災ネットワーク会議が動き出してきたことは評価できる。行政はあくまでもサポートで、やはり町会が強い意思を持って動くことが地域コミュニティづくりには重要になる。その意味でも「新しいコミュニティの姿」というタイトルは、あいまい性は多少あるが、そこも含めて議論を深めるという意味で悪くはないのではないか。

吉田（豊）委員 ただ町会の加入率を増やせばいいというものではないと思うが、やはり何かやるとなったときに組織的な動きをするには、町会の組織というものが先に立たないと動いていかなないように思う。町会だけが全てではないことは事実だが、町会の加入率を増やすということも区民会議の重要なテーマの1つとして掲げていただきたいと思っている。

横山委員 町会加入率もそう簡単に上がるものではない。ごみの課題で切り込むというのは、全ての人に関わる問題ということで意味がある。子育て世代とか、そういう重層的なコミュニティの場を考えたり、つくったりしていくことが重要ではないか。ごみ問題についても、川崎市のごみ市民会議等に学んだり、他の粘り強く活動している団体等との経験交流などもぜひ企画していただきたい。

笹子委員 町会の加入率を上げることも大事であるが、数字が上がればいいという問題でもないと思う。どれだけ深く関わるかというところで、町会との出会いのきっかけとしてごみの行方を訪ねるバスツアー等はおもしろい企画だと思う。環境に限らず、そういう機会に興味のある人が出会い、それをきっかけに町会活動も理解されて加入する人も出てくるのではないか。

富田副委員長 公園等に子育て世代の親や子どもが集まっているケースがあるが、町会や自治会の古い発想を変え、このような人たちにどうつなげていくかということも考えるべきではないか。あるいは子ども会の活動についても、全てを把握するのは難しいが、やはり町会や自治会の古い発想を転換して、どうつなげていくかが地域コミュニティづくりには重要だと思う。

鈴木委員 ごみの出し方を住民に注意したことがあるが、きちんと説明したらルールを守ってくれるようになった。挨拶もしてくれる。発想の転換もよいが、「笑顔で挨拶、

明るい高津」というような昔ながらの伝統が町会をつくっていく基本のスタイルではないか。

吉田（知）委員 同じ家族でも孫になるとわからないということもある。挨拶運動のようなものを展開してはどうかと思う。

佐藤委員長 挨拶からコミュニティが自然と生まれるということだろう。審議課題についてだが、審議課題のタイトルを本日決定するのが難しい場合は、企画運営会議の中で諮ってはどうか。

横山委員 「出会い」という言葉を入れ、「地域で出会い、過ごす」としてはどうか。コミュニティというものが次世代に求めているものは何かということを読み、どう次の解決策に結びつけるかという検討が必要だと思う。

また、想定される論点の候補の中に、ぜひ「環境への関心」というものを入れていただきたい。

金委員 「地域で過ごす」という言葉は漠然としているが、逆にそこがポイントなのではないか。当たり前のことを見直すという意味が含まれているのではないかと思う。コミュニティが壊れかけているという意識もあって、やはり再構築していく必要があるのではないか。

河村委員 「環境への関心」を論点の中に入れることに賛成である。先日安達委員から子どものいない世帯がコミュニティにどう参加していくかという話があったが、環境は一つのキーワードになると思う。

佐藤委員長 タイトルについては、11月15日の学習会においても広く意見をお聞きし、決定は企画運営会議にご一任願いたい。

説明のとおり了承。

吉田（豊）委員 「場づくり」は核になる部分なので少し質が違うと思う。横並びの論点ではなく、「場づくり」はポイントを置いて考えていただきたい。

佐藤委員長 ご意見として承っておく。

（3）学習会・現地調査について

資料5について事務局より説明。

佐藤委員長 学習会の日程について、ご質問、ご意見があるか。

吉田（知）委員 「CAT」というのは何の略称か。

事務局 略称ではなく、正式名称である。

吉田（知）委員 どういう団体か。

事務局 コミュニティ・ビジネスに関する研究、地域コミュニティ活性化についての事業を行っている団体である。

佐藤委員長 後日、事務局から正式通知が送付されるので、そちらをご覧いただきたい。

説明のとおり了承。

(4) 第3期実行計画素案について

「第3期実行計画」について事務局より説明。

佐藤委員長 具体的な内容については、今後開催されるタウンミーティング等で踏み込んでいただきたい。

(4) その他

資料6から資料8について事務局より説明。バーベキュー視察について、川辺委員から報告。

川辺委員 当日は天気もよく、飲酒し川に入る方もいた。時期的にも上流で雨が降った場合には水量が増して危険もあると思うが、親子でバーベキューしている方など、これも新しいコミュニティの姿かと思った。参加して驚いたのはバーベキューセットのレンタル屋が営業していたということ。また、終了時間後の状況にもやや心配があるかと思った。

木村委員 バーベキューに来ている人が意外と素直だと感じた。きちんとした形でやれば、来ている方もきちんとするという。ただ、迷惑を被る人が100%いない状況というのはなかなか難しいと思う。概ね良好になってきたということだと思う。

佐藤委員長 バーベキューの問題については、今後も報告をうけていきたいと考えている。

佐藤委員長 参与の方々からご感想をいただく。

猪股参与 防災計画の大幅な見直しが始まっており、新たな防災戦略を踏まえて今後も議論を深めていっていただきたい。

また、福祉・子育ての中に思春期・青春期の視点を入れていくのはよいと思う。

審議課題タイトルの「地域で過ごす」という言葉は、具体の5つのテーマを横串にしていると思う。

また、環境や防災に関しても、全員参加の制度をつくってほしい。

粕谷参与 ドンキホーテ前駐輪場対策を早急に検討してほしい。また、溝口駅南口の整備にも注目している。

堀添参与 今回の新総合計画の中で地域コミュニティの問題に触れられており、いい先事例になるのではと期待している。行政の区民会議へのバックアップも期待したい。

3 閉 会

佐藤委員長挨拶